

令和元年度 第2回さいたま市民大学運営委員会 議事録

1 開催日時

令和元年11月20日(水) 午前10時00分から11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 9階 学習室1

3 出席者

〈委員：11名〉

- ① 神保 富美子 委員長
- ② 安藤 陽 副委員長
- ③ 青木 光美 委員
- ④ 五十嵐 裕子 委員
- ⑤ 岡崎 滋 委員
- ⑥ 桑原 静 委員
- ⑦ 寺田 道子 委員
- ⑧ 難波 陽子 委員
- ⑨ 平田 利雄 委員
- ⑩ 堀尾 健一郎 委員
- ⑪ 山崎 秀雄 委員

〈各連携施設職員：6名〉

- ① うらわ美術館職員 1名
- ② 博物館職員 1名
- ③ 大宮西部図書館職員 1名
- ④ 青少年宇宙科学館職員 1名
- ⑤ 男女共同参画推進センター 2名

〈事務局：7名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|--------------|-------|
| ① 館長 | 吉田 治士 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |
| ③ 参与 | 野崎 隆史 |
| ④ 主幹兼事業・企画係長 | 荻原 唯史 |
| ⑤ 事業・企画係主査 | 榎 進吾 |
| ⑥ 社会教育指導員 | 伊藤 紀子 |
| ⑦ 社会教育指導員 | 渡邊 京子 |

4 欠席者名

なし

5 協議事項

(1) 令和2年度さいたま市民大学各コース(案)について

6 配布資料

事前配布資料

(1) 令和2年度 さいたま市民大学 (案) について【資料1】

(2) 令和2年度 さいたま市民大学各コース (案) について【資料2】

当日配布資料

(1) 令和元年度第2回さいたま市民大学運営委員会次第

(2) さいたま市民大学運営委員会委員名簿

(3) 令和元年度第2回さいたま市民大学運営委員会席次表

(4) 令和元年度第1回さいたま市民大学運営委員会議事録 (案)

(5) 令和元年度さいたま市民大学実施予定について

(6) 運営委員会等のスケジュールについて

(7) 令和元年度さいたま市公民館要覧

(8) 特別講演チラシ

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 協議内容

第1回さいたま市民大学運営委員会議事録 (案) の承認後、協議事項を検討。

協議事項 (1) 令和2年度 さいたま市民大学 (案) について、資料1、資料2に基づき、生涯学習総合センター及び各連携施設より説明後、協議事項を検討。

安藤副委員長	教養 I について、最新のキーワードに学ぶということだが、キーワードにはどのようなものが考えられるか。
榎事業・企画 係主査	ブロックチェーンはこれから注目される技術、SDGs はさいたま市が「SDGs 未来都市」に選定されているということで例示した。 金融経済はこれまでの講座でも人気があったということ、コンビニ業界は昨今の働き方改革の中での変化を学べるということで企画したが、

	キーワードとしてはあいまいな部分もあるので、ご意見を伺いたい。
青木委員	<p>教養Ⅰと教養Ⅱについてだが、教養Ⅰはビジネス寄りで最新ワードということで、例年だと比較的若く働いている人を想定し土日の開催が多かったと思うが、今回は平日 13時半～15時半なので、内容に興味を持つ層が来られるかをよく検討しないといけないと思う。</p> <p>コンビニ業界は、働き方とフランチャイズという2つの観点があり、どちらに軸を置くかだが、より幅広くということであれば、働き方のほうがよいかもしれない。</p> <p>金融経済情勢ということであれば、ソフトバンクとLINEが統合したこともあり、世界経済での闘いということであれば、キーワードとしてGAF A（米国の4大ネット企業：Google、Apple、Facebook、Amazon）もあげられるかと思う。</p>
神保委員長	ターゲットに対して時間設定がミスマッチになるリスクや、表題に対するアプローチをはっきりさせたほうがよいというコメントだったが、事務局としてはどうか。
榎事業・企画 係主査	今の段階で固めてしまうと、講師選定等にも、今後、行き詰まってしまふ部分があるので、いただいたご意見を参考に検討して行きたい。
平田委員	<p>教養Ⅰとビジネススキルの件、ターゲットがはっきりすればキーワードにするのかどうするのか、広く一般教養という意味で明確になってくると思う。</p> <p>ただ、ビジネススキルについては、2回続けてMBAを取り上げたので、3回目は第一歩にもどったようである。前回の企画からだいぶ変更されている気がする。ビジネススキルを1UPさせるということだが、もうひとつ上げるためには例えば人間関係作りの1UPはこういうことのようにそれぞれに1UPさせるものがないといけないので、1UPの中身を教えてほしい。</p>
榎事業・企画 係主査	具体的な内容としては、人間関係作りとしてアクティブリスニングやアンガーマネジメント、表現力としてプレゼンテーションの仕方、目標達成力としてなぜ目標が大切かや目標を達成する過程（PDCA）、ITスキルとしてSNSの活用などを提示しながらスキルアップを目指していく内容を考えている。
平田委員	それで良いと思うが、1UP講座と“これで解決あるある課題”のイメージがつながるだろうか。表題だけみてイメージが湧くだろうか。技術、取り方など広すぎの感があるので、深く入りこんだ具体的な書き方のほうがよいのではないか。
神保委員長	1UPを掘り下げたときに、今事務局が話した内容とマッチするように内容整理と、教養Ⅰと同様に、表題の工夫が必要ということだと思う。
山崎委員	ビジネスマンのどこをターゲットにしているか（今回は初中級がターゲットか）や目的を明確にする必要がある。できれば一般のビジネスコ

	<p>ースで実施していることを参考にし、つまみ食いだけにならないように。ビジネスや人材育成は段階を経て育てていくのがスタンダードなので、順番も考えたほうがいい。</p>
榎事業・企画 係主査	<p>おっしゃられた通り、ターゲット、誰に講座を届けたいかを明確にするのが非常に重要と考えている。</p> <p>公共施設、生涯学習というのは、学びのきっかけづくりを主眼に置いているので、イメージとしては、入門的なところを考えている。それが受講者にきちんと伝わるよう、演題を検討、内容を整理して、受講者がこの講座は受講する意味があると感じてもらえるような見せ方、作り方を検討して行きたい。</p>
五十嵐委員	<p>ビジネススキルコースの内容はビジネスマンの人材育成に限ったことではないと思う。大学の初年次研修で取り上げられたり、一般市民でもボランティア団体の運営・組織形成などで必要な内容である。</p>
神保委員長	<p>確かに人間関係中心となると社会全般のコミュニケーションということでビジネスに限ったことではないと思う。このコースがビジネススキルということであれば、ビジネスマンに響くような内容設定が必要だろうということか。</p>
榎事業・企画 係主査	<p>広く使えるスキルなのか、ビジネスマンに響くビジネススキルなのか内容を整理して届けたい人に届くような設定をして行きたい。</p>
桑原委員	<p>教養Ⅰについては、経済に興味を持つシニアが多いので心配はないように思うが、教養Ⅱについてはターゲットが絞れてないと難しいのではないか。シニア層と若い層でロールモデルとなる人が異なるので人選が難しいのではないか。</p>
榎事業・企画 係主査	<p>教養Ⅱ コースは、ご指摘のとおり、ターゲットが課題。ひとつのテーマで5回、活躍している人をそろえられれば、テーマと届けたい受講者層に合致すると考えていたが、そろえられそう、声掛けできそうなテーマがあればご意見をいただきたい。</p>
桑原委員	<p>今日ここで人選するというは難しいと思うが、委員の皆さんは人脈があると思うので、提案も含めて意見を集められたらよいと思う。</p>
神保委員長	<p>おすすめの起業家、経営者、新しい発想で活躍している人、企画などあるか。</p>
平田委員	<p>例えば起業家ならば、5、6回はそろえられると思う。ただ、人生100年の講師と今の起業家では受講者のターゲットが全く違う。要するに、2つくらいに絞って、地域にプラス何かで少なくとも5、6回ならば分けなくていいのでは。</p>
神保委員長	<p>2つくらいに絞ってそこから広げていくやり方で、人生100年と地域、企業と地域という組み合わせで5回にまとめていくと可能ではないかということだと思う。</p>
難波委員	<p>“きらめき人” からどんな話だったら聞いてみたいかを考えたとき、</p>

	<p>“埼玉で活動をしたからこそきrameけた”というところに焦点を絞るとよいと思う。そうすれば、“埼玉に住んでいてよかった”、“私も何かやってみたい”、“こんなことができるんだ”という元気や勇気をもらえるような講座になると思う。</p>
吉田館長	<p>テーマが絞り込まれていないことが課題になっているので、テーマを絞り込み、できれば平田委員の抱負な人脈の中から紹介いただきたく、後ほど相談させてほしい。</p>
桑原委員	<p>科学コースの保護者同伴だが、土日、親御さんが仕事や病気のため親子参加が難しいという時にはスタッフでの対応が可能か、また、このコースは青少年が対象なので、できれば子供だけの参加にできないか。</p>
青少年宇宙科学館職員	<p>その点についてはこちらでも検討している。科学館で行っているプログラミングロボット教室は保護者同伴で実施しており、それと同じ対応を取りたいとも考えている。ただ、内容としては子供たちが体験をすることにはなるので、再度検討させていただきたい。</p>
寺田委員	<p>文学コースは6月の上旬から中旬の平日、週2回と書いてあるが、週2回だと時間を作れる人が少ないのではないか。生涯学習の相談を受けていると、隔週の講座を希望、週1回ならなんとか来られるという人がほとんどなので、できれば週1回で開催いただけたらと思う。</p>
大宮西部図書館職員	<p>週2回だと来ることが大変になってしまう人がいるという問題は確かにおっしゃる通りだと思う。回数を減らして、3回なり4回にすることも含めて再検討する。</p>
青木委員	<p>7番美術コースに関しては、開催時期が5月と11月で間が空くので、2回に分けて募集する予定はあるか。5月開催の場合、4月に募集して11月の予定が変わってしまいキャンセルが出てしまうと非常にもったいないので、もし2回に分けての募集が可能であれば、定員も掛ける2で新しい人も受講できるチャンスが増えると思う。</p>
うらわ美術館	<p>募集の事務手続きをしている生涯学習総合センターと相談しながらよりよい方向で前向きに検討したい。</p>
青木委員	<p>8番社会学に関しては、専門用語をわかりやすい言葉に置き換えて、情報の出し方を工夫することで、新しい層にも興味を持ってもらえると思う。</p> <p>ワークショップは、性のことを取り上げるので参加者にとっては非常に大きな負担になる可能性がある。参加したら想定と違って、逆にそれならば参加したかったということにならないように情報の出し方を工夫してほしい。</p>
男女共同参画推進センター	<p>ご意見を参考に、馴染みのなかった人にも親しみやすい、わかりやすい情報発信を心掛け、ぜひ関心を持ってもらえるよう進めていきたい。</p>
平田委員	<p>円空は10万体を1人で作ったのか。1日ひとつにしても1万でも大変だったと思う。</p>

博物館	<p>円空は約12万体を約64年で作り、年間で1,800体以上作った計算になる。簡素なナタとノミで木から掘るだけで作ってしまい、岐阜県内でも1,000体以上、全国で4,500体以上、同じ寺に1,000体以上など、本当にたくさん作った人だった。</p> <p>特に円空の仏像は、非常にやさしい顔のものが多く人気もあるので設定した。</p>
安藤副委員長	<p>8番のコース名「社会学」というのは少し硬い気がする。「社会」または「社会と人間」といったコース名にしたほうがよいのではないかな。</p>
男女共同参画推進センター	<p>コース名については、もう少しやわらかいもので、提案いただいたものも含めて検討したいと思う。</p>
安藤副委員長	<p>4番科学の対象は、小学4年生から中学生だが、構成はどうなるだろうか。2回あるのであれば、小学生と中学生でコースを分けられないか。というのも、小学生は保護者同伴があり得るが、中学生はそうとは限らない。教え方も小学生と中学生では変わってくるのではないかな。</p>
青少年宇宙科学館	<p>一昨年、約7倍の子供たちからの応募があったが、抽選は事務局に任せていたので、私たちが把握しているのは選ばれた子供たちだけである。</p> <p>今回、小学生・中学生の人数調整をするかは、こちらと相談をして決めてもらう形になるかと思う。1講座10名という限られた人数ではあるが、前向きに検討したいと思う。</p>
岡崎委員	<p>文学コースについて、今年度の講座申込の数字があまり良くなかったのは、場所が関係していた可能性もあったのではないかなと思われるが、他の図書館での開催はできないのだろうか。たとえば、講座のときにも大宮図書館で開催する可能性について尋ねたが、今はもうオープンしており、新しくてきれいなところなので、そちらで開催してはどうか。</p>
大宮西部図書館	<p>さいたま市の図書館に対して、生涯学習総合センターから連携として依頼をもらっている。大宮図書館は今年度5月にオープンしたが、オープンしてまだ間もなく、来館者が多くイベントも大変多く開催していることから余裕がないため、大宮西部図書館が引き続き今回も企画等を担当している。今のところ、来年度も大宮西部図書館で開催する予定でこの企画書を提出している。生涯学習総合センターからの依頼は、特に大宮西部図書館宛ということではないので、来年度すぐ場所が変えられるかはこちらのイベントの予定等も関わるのでなかなか難しいところもあるが、皆様のご要望等をいただいて、今後、来年、再来年以降の会場等についても検討できればと思う。</p>
神保委員長	<p>音楽コースは、前回の運営委員会の時に音楽の要望があり、私が文化芸術の財団に勤めているので事務局から相談を受け、設定したのがこのコース。芸術家や作曲家を学ぶことやコンサートをするというのは普通にできることで、市民大学ならではの何か面白いものを提案しないと意味がない。これはいわゆる文化の世界でも非常に新しい取り組みの一つ</p>

	<p>で、“ハモる”と“コミュニケーション”を組み合わせる“ハモニケーション”とし、仲間を作りながら、仲間が持つ課題を歌詞として作曲する。構成メンバーによって、歌詞や作曲が変わったりして、それを講師がうまくナビゲートしていく感じ。</p> <p>もし、このコースを設定するとしたら、テレビに出ているような有名人やそれに近い人をお願いするのだが、講義料が限られていても意義を話して協力してもらおう。</p>
岡崎委員	1 2 番音楽コースは、内容は記載されている4つに限らず、委員長が説明したことも含めてということでよいか。
神保委員長	1 2 番はこの内容では不足なのではと感じて補足した。
岡崎委員	シニアユニバーシティとの住み分けの件、市民大学は、高度な専門知識云々といううたい文句から始まる内容を求められているのに対して、ここに書いてある内容だけであれば、シニアユニバーシティのほうがふさわしいのではないかと感じた。しかし、先ほどの委員長からの内容も踏まえてということなので、ぜひ、市民大学の内容にふさわしいものという形で、さらにレベルアップしてもらいたいと思う。
難波委員	音楽コースについて、これは4回位で曲を作って、最後の会に歌って発表会をして終わるような形になるかと思うが、その後、そのメンバーでさいたま市内で何か文化的なイベントの発表会に出演するとか、もう一段階発表の場を想定されているか。個人的には、そういう場があった方が、参加者はより楽しく、目標を持って参加できるのではないかと思う。
神保委員長	多分それは、今は設定してないと思う。実際4回で歌詞と作曲をするのには相当なエネルギーが要る。実は、これを見た時に、4回で歌詞、作曲、歌うところまで行くだろうかと思った。発表もいいが、そこで歌を作ることでその人の課題を見たり、曲を作ったりすることを体験する。体験というのは相当高度な知識だと思う。発表が最後の姿というよりは、4回で解決するというのも新しい形ではないか、この中身が新しい形だと思う。
桑原委員	新しくこういうコースができたというのは興味深く、様々な人が興味を持たれると思う。先ほど、若い人たちにもこの市民大学に参加してもらいたいという話があったが、平日だとなかなか来られないので、講師の都合もあると思うが、できるだけ、いろいろな人たちが来られる曜日や時間に設定するとよいと思う。
神保委員長	事務局に相談された時に、新たな世代の掘り起こしという話を聞き、設定人数も増やして、多くの人に学んでいただきたいとか、参加者を増やしたいということはもちろんあると思うので、20人がギリギリの人数だが40人も可能かというように講師と相談しなければならないこともあると思う。また、若い世代に響くような演題などを考えなければな

	らないとも思う。
難波委員	<p>全般に渡ってだが、若い世代ということになると託児がどの程度つくのかというのがとても気になる。音楽コースも託児がつけば、子育て世代も参加しやすくなると思う。</p> <p>託児つきかどうかをまとめて書いてあるものはあるか。</p>
榎事業・企画 係主査	<p>託児をつけることについては、これまでも、委員の方からご意見をいただいております、子育て世代への学習機会の提供ということで、託児をつけることは大変重要なことだと考えている。音楽コースについても、そういう世代の方をねらうのであれば、当然託児はつけたいと考えている。</p> <p>また、11番の食と健康コースも、話す内容にもよるが、お子さんの健康やそのようなことを気づかっている世代の人に受講いただきたいということであれば当然、託児をつける方がよいと考える。</p> <p>予算の兼ね合い等もあるが、ご意見をいただいたものはつけるように検討したい。</p>
安藤副委員長	<p>全般的なことだが、市民企画とパソコンコースは従来通りということで、受講者を増やすためにいくつか新しいものを設けたということだが、これは、テーマとしては、単発的なのか、あるいはこれからもずっとこのような形でコースとして設定していくのか。</p> <p>地域ボランティアについては、2つ講座を開く必要はないが、来年、その翌年を考慮すると、ボランティア指導者の育成ということもあり、地域ボランティアが1つぐらいいいのではないかと。</p> <p>13番のコース名「お金の学校」というのは、少し直接的すぎるような気がする。内容のところに概論として「暮らしとお金について」と書いてあるので、「暮らしとお金」とした方がよいのではないかと。</p>
榎事業・企画 係主査	<p>継続性も重要と考えているが、新たな受講者層の掘り起こしということで、チャレンジという意味もありコースを用意した。まずは今回新しい試みということで、ご理解いただきたいと考えている。</p> <p>ボランティアの養成も非常に大事なところと考えているが、新たなコースを企画していることもあり、直接的にボランティアを育成、ボランティアになるためのスキルを直接提供するコースというのは、今回の中ではなかったが、ボランティア等地域を支える人を対象としているところもあるので、そういった人に、いかに講座に参加していただけるかを今後の課題ととらえて、進めて行きたいと考えている。</p> <p>「お金の学校」については、「暮らしとお金」ということで意見いただいたので、検討のうえ、第3回の時に提案させていただきたい。</p>
山崎委員	<p>食と健康について、最後に実習とあるが、料理を作るということか。食の安全が入っていないが、それは、考えられているか。ノロだとかあり、こういう料理は何時間後は危ないなどといった内容も入っているのか知りたい。</p>

野崎参与	食と健康について、安全に関わる部分は今の段階では考えてなかったが、食中毒やノロも含まれる。さらに、キノコの問題とかもあるだろう。食と安全という観点で考えると、広がっていくという部分もあるので、今考えている講義とうまく連携し、どのようなものができて、やっているかということは、改めて考えたい。
吉田館長	市民が130万人もいて、募集定員を下回ることは、有り得ないと感じている。市民大学を知らない人がたくさんいるので、今回は認知度を上げるために、新たな試みをいろいろ企画した。取り組みを継続するかは課題とするが、令和2年度は、そうした位置付けで進めて行きたいと思う。最終的には、1月にもう少し詰めたものをお示したいと思う。

10 その他（令和元年度さいたま市民大学実施予定について、運営委員会等のスケジュールについて）

令和元年度さいたま市民大学実施予定、運営委員会のスケジュール等を生涯学習総合センターより説明の後、閉会。

次回、第3回の運営委員会は来年1月22日（水曜）、10時から開催予定。

11 閉会